

2012年度

第1回理事会・評議員会

議案書



▲2011年10月13日 大船渡市立綾里中学校 ユニセフ Tegami Project

- 日時 2012年2月28日(火) 13:30~15:00
- 会場 サンセール盛岡 2F 桐華

盛岡市志家町1-10 TEL019-651-3322

岩手県ユニセフ協会

unite for
children

unicef 

プ ロ グ ラ ム

1. 日 時 2月28日(火) 13:30~15:00

2. 会 場 サンセール盛岡 2F 桐華

3. 次 第 開 会

あいさつ

議長選出

議事録署名人の選出

書記任命

議案の提案

第1号議案 2011年度事業報告・決算報告・監査報告の件

第2号議案 2012年度事業計画・収支予算(案)の件

第3号議案 岩手県ユニセフ協会役員に関する件

議長解任

閉 会

特別報告 (公財)日本ユニセフ協会専務理事 早水 研氏
東日本大震災支援

第1号議案 2011年度事業報告・決算報告・監査報告の件

はじめに

未曾有の3・11東日本大震災から一年、ユニセフ（国連児童基金）が半世紀ぶりに日本支援を表明し、東日本大震災で被災した子どもたちの支援活動を開始しました。

ユニセフが日本国内で支援活動を展開するのは、第二次世界大戦後、約15年間続いた粉ミルク（脱脂粉乳）などの学校給食を通じた支援や、1959年の伊勢湾台風被災者への緊急支援以来で約50年ぶりの日本支援となります。

これと並行し、(公財)日本ユニセフ協会は、3月14日に「東日本大震災緊急募金」の受付を開始しました。

今まで世界の子どもたちを支援してきた日本ですが、日本の子どもたちを守るために世界は一つになり支援が集まり、ユニセフは、被災地に救援支援物資の提供、保健・栄養支援、保育・学校や児童生徒の支援、心理社会的支援（心のケア）、子どもの保護、子どもにやさしい復興をめざして取り組んできました。

岩手県ユニセフ協会は、ユニセフ災害対策本部盛岡事務所と連携しながら、ボランティアのみなさんと一緒に子どもたちの支援に取り組んできました。

また、4月(財)日本ユニセフ協会が「公益財団法人日本ユニセフ協会」に移行に伴い、「岩手県ユニセフ協会」は名称変更し、東日本大震災支援を中心に据え、10周年記念事業、「第1回いわてユニセフ・ラブウォーク」「10周年記念公演」をすすめてきました。

多くの子どもたちは、東日本大震災を機にユニセフの役割を改めて確認できたのではないのでしょうか。(公財)日本ユニセフ協会の唯一の協定地域組織として、県内におけるユニセフ活動の中心的な役割を果たしてきました。

1. 岩手県ユニセフ協会の運営

- (1) 第1回理事会・評議員会8月2日に開催しました。
- (2) 経費は、日本ユニセフ協会との協力協定細則に基づく、運営費仮受金518,625円、地域普及費仮受金1,200,000円、カード普及費仮受金206,593円、特別事業費仮受金500,000円、移行経費仮受金441,618円（予算2,760,618円）でまかないました。
- (3) 県協会の活動はボランティア延べ185名が参加し、ユニセフ出前講座・イベントへの対応をしました。12月ハンド・イン・ハンド募金活動への参加ボランティア878名を含め1063名が参加しました。
- (4) 県協会の日常的な運営や企画の具体化を話し合う運営会議（構成：専務理事・常務理事・ボランティア）を4回開催し、活動を円滑にすすめてきました。また花巻友の会は、毎月例会を開き、運営や活動の交流を深めました。
 - ① いわて生協ユニセフ委員会は、学校や地域のユニセフ出前講座、募金活動など県協会ボランティアスタッフと一緒に活動してきました。

- ② 諸会議・研修への参加

6月16～17日 日本ユニセフ協会協定地域組織事務局長会議（東京：ユニセフハウス）

事務局長 藤原 綾子

9月1～2日 日本ユニセフ協会協定地域組織研修（仙台：茂庭荘）反町久美、藤原綾子

2. 募金活動と会員

(1) 2011年度岩手県ユニセフ協会に寄せられた募金額は、3,236,077円でした。

(2) 一般募金と指定募金

- ① 学校では、総合的な学習の時間に国際理解講座としてユニセフに取り組み「世界の子どもたちを知り、自分たちにできることを見つけよう」と資料・ビデオ学習し、ユニセフ募金に取り組みました。
- ② 花巻友の会は、8月1日ユニセフチャリティコンサートを開催、11月1日ユニセフバザー、12月4日ハンド・イン・ハンド募金の呼びかけをしました。



▲ユニセフ平和チャリティーコンサート 不来方高校音楽部

- ③ いわて生協は、お店に募金箱を設置、共同購入での取り組み、ハンド・イン・ハンド募金、書き損じ・未使用ハガキなどの取り組みのほか、カレンダー募金、東北の生協の指定募金はネパールに取り組んでいます。新しい指定募金として全国の生協でコープコアノンスマイルプロジェクト・アンゴラ子どもたちにやさしい学校づくりに取り組みました。
- ④ 各生協では、岩手県学校生協、盛岡大学生協学生委員会、盛岡医療生協でユニセフ活動に取り組みました。県内生協ではユニセフ募金箱の設置をし、日常的な募金活動に取り組んでいます。
- ⑤ 募金贈呈式は、学校9校・3団体でした。
綾里中学校、佐比内小学校、星山小学校、桜台小学校、鬼柳小学校、二子小学校、盛岡スコーレ高校、花北青雲高校、盛岡大学生協学生委員会、妙円寺、ゆかわ脳外科スポーツクラブ、盛岡レオクラブ
- ⑥ ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉街頭募金活動）
東日本大震災支援「子どもたちに笑顔をおくろう」と12月4日花巻友の会、12月11日いわて生協・岩手県学校生協・盛岡大学生協・県協会が盛岡市内で実施しました。
県内では、39会場、878名（子ども726名）が参加し子どもたちの参加が多く募金額は1,169,167円と前年を大幅に上回りました。



⑦ ユニセフ募金箱の設置

募金箱設置のご協力店・ホテルは、年1回募金回収し、日本ユニセフ協会に送金しました。

(3) 岩手県国際交流協会2011ワン・ワールドフェスタ in いわて

12月4日(日) アイーナ

「世界との絆 ありがとうを岩手から」をテーマに開催、岩手県ユニセフ協会は活動紹介パネル展示、カード&グッズの頒布など参加者との交流を深めました。

(4) ユニセフ賛助会員

2011年12月末の会員

団体会員2件・一般会員192人・学生会員3人 合計197人となっており、盛岡・花巻中心の会員を全県に広めていくことが課題です。

3. 広報活動・開発教育

(1) 広報活動

① 「ユニセフ視聴覚教材」の貸出しと日本ユニセフ協会発行の資料を有効活用しました。学校での総合的な学習の時間や文化祭などで活用されました。

② 視聴覚教材の貸出しや資料送付、水がめ・地雷・蚊帳の貸出した学校・団体は35件です。

③ いわて生協ユニセフ委員会が作成したユニセフすごろくは、楽しみながらユニセフと世界の子どもたちについて学ぶことができました。ユニセフ・東日本大震災援紙芝居を作成し、ハンド・イン・ハンド事前学習で活用しました。

(2) 開発活動

岩手県ユニセフ協会・花巻友の会への訪問は3校・7団体、ユニセフ出前講座・Tegami Projectは10校が世界の子どもたちとユニセフの活動、東日本大震災の各国からの励ましや絵にありがとうのお返事を出しました。

① 大船渡市立綾里中学校 10月13日(木) 全校生徒 75名

スリランカ・エリトリア・南アフリカ・ベトナム

講師：菊川 穰さん、小林葉子さん、宮田由香さん

② 盛岡大学学生委員会 11月7日(月) 参加 13名

グルジア、フィリピンの子どもの絵 20通

- 講師： ジャコモ・ピロツィさん 写真家
- ③ 金ケ崎町立西小学校 11月15日(火) 5～6年生 18名
マダガスカル、フィジー
講師：ユニセフ盛岡事務所原田さん JOCA 遠野所長渡辺督郎さん
- ④ 盛岡市立上田小学校 11月18日(金) 5年生 66名
ネパール
講師：松原 杏寿さん
- ⑤ 金ケ崎町立永岡小学校 11月18日(金) 3～4年生 33名
ガーナ
講師：東大大学院 齊藤有香さん
- ⑥ 岩手県立大学社会福祉学部 11月21日(月) 参加 12名
中国 河南理工大学
特別講師：県立大学准教授 張京萍先生
(中国からのお手紙には、宮古北高校・不来方高校・盛岡大学・岩手大学のみならずも参加)
- ⑦ 遠野地域 11月27日(土) 親子参加 23名
「いのちの水」DVD、5歳の誕生日をおぼえていますか？
- ⑧ 県立花北青雲高等学校 12月1日(金) 3年生 42名
カンボジア
講師：中央大学大学院 留学生セン チャンダさん
文化祭の益金 31,400円 ユニセフワクチン支援
- ⑨ 金ケ崎町立三ヶ尻小学校 12月2日(金) 5年生 28名
インドネシア
講師：東北大学 留学生デフィさん
- ⑩ 久慈地域 8月9日(火) 久慈コープ
親子参加 子ども15名 親 8名
ユニセフすごろくで経口補水塩などを学ぶ

② 日本ユニセフ協会の展示場「ユニセフハウス」を見学した中学校は9校でした。

4. ユニセフ写真パネル展に取組みました。

「ユニセフ東日本大震災写真展」 8月1～7日盛岡市、花巻市 入場者延べ200名
この写真展は、『Build Back Better』（被災前よりも良い状態を実現する）をめざして、震災発生から2カ月余りの間に展開したユニセフ協会の支援活動の一部を紹介する写真パネル展です。



▲じっと見つめる若いお母さん

5. いわてユニセフ10周年記念事業

10年のあゆみをふりかえり、更なるユニセフ活動のひろがりをめざし、いわてユニセフ10周年記念事業を実施しました。

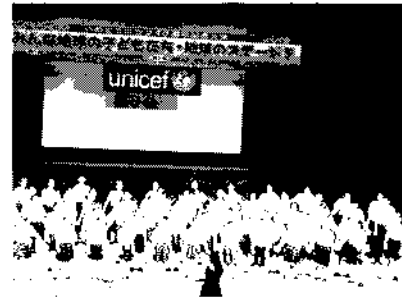
(1) 「第1回ユニセフ・ラブウォーク in いわて」

岩手県ウォーキング協会・盛岡市ウォーキング協会の共催で、2011年5月22日、盛岡城跡公園広場をスタート・ゴールに250名の参加で実施しました。



(2) いわてユニセフ 10周年記念公演は、2011年8月7日、アイーナで300名の参加で実施。

第1部 Music for Peace では一関修紅高校音楽部、キャラホール少年少女合唱団の合唱、また、大槌町キッズコーラス「あくどまめ」の親子をご招待しキャラホール少年少女合唱団との交流が深められました。



第2部「地球のステージ5 ～果てなき地平線～東日本大震災編」公演

精神科医桑山紀彦さんはNPO法人「地球のステージ」の代表理事で、ステージ5は国際協力編・ガザ危機編・初の「ヒロシマ篇」、「東日本大震災編」を公演、名取市の被災地や国際クリニックでの診療の様子に、「被災地に思いをはせ、涙が止まりませんでした」「何かお役に立つことをしたいなあといいながら聞きました」「桑山先生から心に大切な宝物をいただいて帰ります。本当に来てよかった」と被災者の方のアンケートもありました。



東日本大震災緊急募金として会場呼びかけた募金 38,827 円は、被災地の子どもたちの支援に使われます。

6. 「子どもの権利」の実現を目的としたアドボカシー（政策提言）活動

「児童ポルノがない世界をめざして」日本ユニセフ協会は、緊急アピールと法改正の署名活動を実施し、県内では3850筆の署名（全国110万筆）のご協力がありました。国会に提出しましたが、継続審議となっています。
単純所持を禁止していないのは、G8の中でロシアと日本だけです。

7. ユニセフカード・グッズの販売

カード・グッズの取扱いは、312、465円となり、学校・地域・団体のイベントでご案内し、ユニセフを知っていただく機会ともなりました。代金の50%はユニセフ募金となっています。

8. 他団体との提携

- 9月11日 もりおかNPOまつり
- 10月16日 いわて生協福祉まつり
- 12月 4日 ワン・ワールドフェスタ inいわて 岩手県国際交流協会



9. 東日本大震災支援

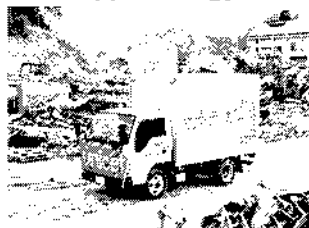
2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震、大津波による甚大な被害が東日本を襲いました。

ユニセフは、半世紀ぶりに日本への支援を表明し、日本ユニセフ協会を実施団体として世界に支援を呼びかけました。

世界各地のユニセフ現地事務所から派遣された日本人専門家は、日本ユニセフ協会災害対策本部とともに岩手県入りし、3月20日から県内被災地への支援活動が始まりました。岩手県ユニセフ協会として、災害対策本部盛岡事務所と提携し一緒に進めてきました。

1. 救援支援物資の提供

- ・ 子ども用肌着・長靴の仕分けセット・現地への配送



2. 保健・栄養支援

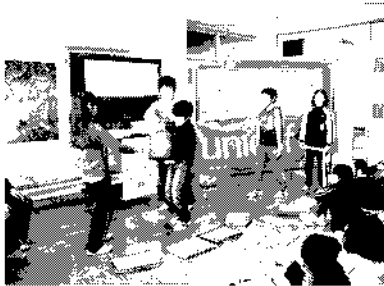
- ・ 保育園・幼稚園のおやつ仕分け、共同購入でお届け

3. 保育・学校や児童生徒の支援

- ・ 学用品16,700人 ボランティアのリレーで児童・生徒に



- ユニセフ Tegami Project



4. 心理社会的支援（心のケア）

- こども遠足バス5月～6月 ボランティア研修、当日ボランティア
- 大槌町保育園・幼稚園へ球根植えボランティア
- 父母・小・中・高校生へのチラシセット 3回
- “たかだのわらしBa”手洗いダンス
- 10周年記念事業 大槌町キッズコーラスあぐどまめの招待



2011年度 岩手県ユニセフ協会活動日誌

- 4月11日 花巻友の会総会
- 4月15日 いわて生協ユニセフ委員会
- 5月 5日 ユニセフこども遠足バス（西和賀）
- 5月 7日 第1回運営会議
- 5月 8日 ユニセフこども遠足バス（賢治童話村）
- 5月15日 ユニセフボランティアおやつセット
- 5月22日 第1回いわてユニセフ・ラブウォーク

5月26日 岩手県国際交流協会関係団体連絡会議
5月29日 ボランティアプレイセラピー研修
6月 5日 ユニセフこども遠足バス（アーク牧場）
6月 9日 ユニセフボランティアチラシセット
6月10日 第2回運営会議
6月11日 ユニセフこども遠足バス（チャグチャグ馬こ）
6月16～17日 全国協定地域組織事務局長会議
6月22日 岩手県生活協同組合連合会総会
6月28日 2010年度会計監査
7月 3日 岩手県母親大会 カード頒布
7月22日 花巻市立桜台小学校募金贈呈
7月31日 ユニセフ平和チャリティコンサート（花巻友の会）
8月 2日 2011年度第1回理事会・評議員会
8月1～4日 ユニセフ写真・パネル展 花巻市妙円寺
8月5～7日 ユニセフ写真・パネル展 盛岡市アイーナ
8月 7日 いわてユニセフ10周年記念公演
8月 9日 久慈地域出前講座
8月11日 ユニセフボランティアチラシセット
8月11日 妙円寺募金贈呈
8月21日 2011年度ワンワールドフェスタ実行委員会
8月31日 もりおかNPOまつり実行委員会
9月1～2日全国協定地域組織研修
9月 9日 第3回運営会議
9月11日 もりおかNPOまつり（ホットライン肴町）
9月30日 いわて生協ユニセフ委員会
10月 2日 ワンワールド・フェスタ実行委員会
10月 6日 大槌町保育園球根ボランティア下見
10月 6日 ゆかわ脳外科募金贈呈
10月13日 大船渡市立綾里中学校ユニセフ Tegami Project
10月15日 盛岡大学学園祭 ユニセフ東日本大震災支援報告
10月16日 いわて生協福祉まつり
10月19日 日本ユニセフ協会東郷良尚副会長来県
10月26日 大槌町保育園球根ボランティア
10月28日 岩手県消費者大会カード頒布
11月 1日 花巻友の会バザー
11月 3日 2011年度ワンワールドフェスタ実行委員会
11月 7日 盛岡大学 ユニセフ Tegami Project
11月11日 第4回運営会議
11月15日 金ヶ崎町立西小学校ユニセフ Tegami Project
11月18日 金ヶ崎町立永岡小学校ユニセフ Tegami Project
11月18日 盛岡市立上田小学校ユニセフ Tegami Project
11月21日 岩手県立大学社会福祉学部ユニセフ Tegami Project
11月27日 遠野市青笹地区・児童と父母ユニセフ出前講座

11月26日 花巻友の会 ハンド・イン・ハンド事前学習
11月30日 花巻ソロプチミストユニセフ東日本大震災支援報告
12月 1日 岩手県立花北青雲高校ユニセフ Tegami Project
12月 2日 金ケ崎町立三ヶ尻小学校ユニセフ Tegami Project
12月 2日 産直大会カード頒布
12月 3日 盛岡市 ハンド・イン・ハンド事前学習
12月 4日 2011年度ワン・ワールドフェスタ inいわて
12月 5日 2011ハンド・イン・ハンド 花巻市 3ヶ所
12月 6日 北上市立鬼柳小学校募金贈呈
12月11日 2010ハンド・イン・ハンド 盛岡市 6ヶ所
12月12日 日本ユニセフ協会早水研専務理事来県
12月20日 盛岡大学募金贈呈
12月21日 北上市立二子小学校募金贈呈

岩手県ユニセフ協会収支決算報告（2011年12月31日）

1. 収入の部

- (1) 日本ユニセフ協会との協力協定細則に基づく、運営費仮受金518,625円、地域普及費仮受金1,200,000円、カード普及費仮受金206,593円特別事業費仮受金500,000円、移行経費仮受金441,618円（予算2,760,618円）です。
- (2) カード普及費仮受金は、2010年度・2011年度のカード&ギフト販売額の15%です。

2. 支出の部

- (1) 事業費
- ① 催事費は予算比98.2%の執行です。ユニセフ写真パネル展、ユニセフチャリティコンサート、ユニセフ出前講座などです。
 - ② 資料制作費は予算比78.0%の執行となっており、岩手県ユニセフ協会ニュース、花巻友の会ニュース発行、10年のあゆみDVDの作成費などです。
 - ③ 通信運搬費は会員へのお知らせや、学校・団体への視聴覚教材・資料等の送付にともなう郵便代・宅急便代・切手代、電話代などです。予算比125.0%の執行です。
 - ④ 消耗品費は、啓発活動にかかわる封筒・文具等の購入によるものです。
 - ⑤ ボランティア費は、ボランティアの啓発・募金活動を行う際にかかる交通費・ガソリン代などです。いわて生協・岩手県学校生協のユニセフ委員をはじめ会員ボランティアのご協力をいただいております。

(2) 運営費

- ① 会議費は、理事会・評議員会・運営会議の開催にともなう会場費などです。
- ② 通信運搬費は、理事会・評議員会の開催にともなう切手代などです。
- ③ 消耗品費は、封筒・文具等の購入によるものです。
- ④ 印刷製本費は、理事会・評議員会・議案書作成によるものです。

【貸借対照表】

2011年12月31日
現在

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
県協会 現金	483,831		
県協会普通預金	19,751		
		県協会現金預金計	503,582
花巻友の会 現金		花巻友の会現金預金計	2,830
		流通資産計	506,412
2 固定資産			
什器備品	0		
		固定資産計	0
		資産計	506,412
II. 負債の部			
1 流動負債			
預り金 ユニセフ募金	172,500		
預り金 カード・グッズ代	312,465		
		流動負債計	484,965
III. 正味財産の部			
正味財産			21,447
負債及び正味財産の合計			506,412

収入の部

大項目	中項目	小項目	2011年度予算	2011年度実績	予算比%	実績	内訳	備考
仮受金収入						県協会	花巻	
	運営費仮受金	年間予算75%	519,000	518,625	99.9%	418,625	100,000	前年1月~12月当該県の納入会費の50%
	地域普及費仮受金	年間予算75%	1,200,000	1,200,000	100.0%	1,065,000	135,000	地域普及費仮受金実施要項に基づく
	カード普及費仮受金		100,000	206,593	206.6%	206,593	0	カード取扱目録額の15%(2010,2011年度分)
	特別事業費仮受金	10周年記念事業	500,000	500,000	100.0%	500,000	0	
	移行経費仮受金		441,618	441,618		441,618		
寄付金収入			0					
会費収入(独自)								
	公的機関からの補助金		0					
	民間からの補助金		0					
雑収入			0	44		34	10	預金利息など
募金仮受入金			0	172,500		172,500	0	予算化しません。
カード仮受入金			0	312,465		312,465	0	カード取扱額
小計			2,760,618	3,351,845		3,116,835	235,010	
前期繰越金			0	0		0	0	
合計			2,760,618	3,351,845	121.4%	3,116,835	235,010	

支出の部

大項目	中項目	小項目	2011年度予算	2011年度実績	予算比%	県協会	花巻	備考
事業費			2,307,618	2,292,738	99.4%	2,095,108	197,630	
	啓発・募金活動費		1,366,000	1,350,111	98.8%	1,152,481	197,630	
		催事費	400,000	392,618	98.2%	260,776	131,842	催事実施費用、他団体との交流、募金活動
		資料制作費	160,000	124,843	78.0%	100,300	24,543	機関誌、募金報告書ほか資料作成費
		旅費交通費	130,000	132,500	101.9%	108,900	23,600	啓発・募金活動にかかる旅費と交通費
		通信運搬費	160,000	199,954	125.0%	189,709	10,245	事業に伴う郵送料・宅配代・切手代・電話代
		消耗品費	26,000	44,252	170.2%	36,852	7,400	啓発・募金活動にかかる文房具代
		ボランティア費	30,000	13,990	46.6%	13,990	0	ボランティア交通費、保険など
		アルバイト費	90,000	80,000	88.9%	80,000	0	臨時または定期的なアルバイト手当
		光熱水費	0	0		0	0	電気代・ガス代・水道代
		事務所借料	0	0			0	
			0	0		0	0	
		事務局スタッフ費	360,000	360,000	100.0%	360,000	0	専従スタッフの手当
		雑費	10,000	1,954	19.5%	1,954	0	啓発・募金活動にかかるその他経費
	特別事業費	10周年記念事業	500,000	501,009	100.2%	501,009	0	周年事業に関わる経費
	移行経費		441,618	441,618	100.0%	441,618		
運営費			448,000	552,695	123.4%	518,145	34,550	
	会議費		50,000	108,968	217.9%	79,368	29,600	打合せ、お茶代
	通信運搬費		50,000	100,728	201.5%	95,778	4,950	日常業務に関わる郵便代・HP
	消耗品費		20,000	18,270	91.4%	18,270	0	文房具
	図書資料費		0	0		0	0	新聞購入
	印刷製本費		30,000	37,044	123.5%	37,044	0	議案書、日常書類作成
	水熱光費		0	0		0	0	電気代・ガス代・水道代
	賃貸料		0	0		0	0	
		事務所借料	0	0		0	0	
		OA機器リース料	0	0		0	0	
	備品購入費		0	0		0	0	
	交通費		108,000	101,700	94.2%	101,700	0	事務交通費
	事務局スタッフ費		180,000	180,000	100.0%	180,000	0	専従スタッフの手当
	雑費		10,000	5,985	59.9%	5,985	0	日常業務に関わるその他経費
募金仮受金払い出し金			0	172,500		172,500	0	予算化しません。
カード仮受金払い出し金			0	312,465		312,465	0	県協会が取り扱った額の協会への送金
次期繰越金			5,000	21,447	428.9%	18,617	2,830	
合計			2,760,618	3,351,845	121.4%	3,116,835	235,010	



監査報告書

岩手県ユニセフ協会
会 長 三浦 宏 様

私たち監事は、2011年4月1日から2011年12月31日までの業務執行状況ならびに決算について監査を行いましたので報告いたします。

- 1.日 時 2012年2月9日(木)10:00～11:00
- 2.会 場 秋山会計事務所
- 3.対 象 2011年4月1日～2011年12月31日
業務執行状況ならびに財務諸表監査
- 4.立 会 人 事務理事 高橋ヤチ子 事務局長 鎌原綾子 岩手県生協連 細川しのぶ
- 5.監査報告 2011年度期末決算書につき、監査しましたところ適正に処理されておりましたので報告いたします。

2012年2月9日

監 事 伴 藤 慶 子 
監 事 秋 山 信 晴 

第2号議案 2012年度事業計画・収支予算（案）の件

岩手県ユニセフ協会は、2001年12月8日、日本ユニセフ協会花巻友の会として活動していた花巻地域のユニセフ会員や、県内でユニセフ活動に取り組んでいる学校・生協・企業・諸団体のみなさまと手をつなぎ、国内で10番目の「(財)日本ユニセフ協会岩手支部」を設立しました。

昨年、岩手県ユニセフ協会と名称変更し二年次の活動となります。今までお寄せいただいたご支援のもと、培ってきた活動やつながりを大切に、世界の子どもたちの命と成長を守るユニセフ活動と東日本大震災支援の活動をすすめていきます。

1. 募金活動と会員の拡大に取り組めます。

(1) 一般募金の理解を広げ募金に取り組めます。

① 広く県民、団体、企業に、ユニセフ活動を普及し募金協力を広げます。

- ・各生協での、ユニセフファミリー募金、お年玉募金、指定募金の支援をします。
- ・この間、ユニセフ募金に取り組んでいただいている企業・団体に、資料等を提供し、引き続き取り組みを呼びかけます。

② 学校募金活動を広げます。

- ・学校への資料提供、ユニセフ出前講座などの支援をします。
- ・ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉街頭募金 花巻市12／1、盛岡市12／15）などで募金活動を呼びかけます。

③ 外国コイン募金、古切手、書き損じハガキに取り組めます。

(2) 日本ユニセフ協会からの呼びかけによる「緊急募金」に取り組めます。

東日本大震災緊急募金

(3) 他団体との提携

(4) 県内に友の会の組織作り

(5) ユニセフ募金箱設置協力を呼びかけます。

(6) 賛助会員として、ユニセフ活動を応援する会員拡大は、250人を超える会員になるよう取り組めます。募金額は1,000万円をめざします。

2. 広報活動・開発教育に取り組めます。

(1) 広報活動

① ユニセフ視聴覚教材（ビデオ・パネル）、水がめ・地雷レプリカ・教育キット・ワクチンボックス・蚊帳の貸出しを行います。

- ② 日本ユニセフ協会発行の資料を有効活用します。
- ③ ユニセフ写真展・講演会等を通して、世界の子どもたちの現状を伝え、ユニセフへの理解と支援を広めます。
- ④ 岩手県ユニセフ協会ニュース・花巻友の会ニュースを年3回発行します。
- ⑤ ホームページの充実

(2) 開発活動

- ① 学校や団体の要請に応え、「ユニセフと地球のともだち」を気軽に学習できるユニセフ出前講座を実施します。
- ② ユニセフ講座の開催
- ③ ボランティア活動をすすめるために、研修会や交流会に参加します。
- ④ 留学生や学生ボランティアの運営参加と場づくりに積極的に取り組みます。

3. 子どもたちの3・11ユニセフ東日本大震災報告写真展

多くの著名な写真家の方々、国内報道各社のご協力をいただき、この惨状と子どもたちの実情、そしてみなさまの募金によって展開された緊急支援、復興支援の様子を伝える写真展を開催します。

3月1日(木)～5日(月) 盛岡市 イオンモール盛岡 2F イオンホール
 3日(土) 14:00～ 東日本大震災支援コンサート セントラルコート
 キヤラホール少年少女合唱団

4. 第2回いわてユニセフ・ラブウォーク ～盛岡城跡公園から清流中津川の散策～

思い思いのペースで歩いた汗がユニセフを通じて開発途上国の子どもたちに役立てられるユニセフ・ラブウォーク。

昨年に引き続き募金は「東日本大震災緊急募金」とします。

日 時： 2012年5月20日(日)

集 合： 盛岡城跡公園広場 集合9:00 10:00スタート

コース： 5km、10km

参加費： 大人500円・子ども(18歳未満)200円

(共にユニセフ募金、保険の費用を含む)

共 催： 岩手県ウォーキング協会、盛岡市ウォーキング協会

5. ユニセフ平和チャリティーコンサート

一人ひとりの出会いを大切に、お互いに支えあい、助け合って平和な未来をめざし第3回ユニセフチャリティーコンサートを開催します。

日 時： 2012年7月29日(日)

会 場： 花巻市 なはんプラザCOMZ ホール

内 容： テーマ「賢治のころ」

出 演： 花巻農業高校・鹿踊り、不来方高校音楽部ほか 予定

6. 第11回「いわてユニセフのつどい」の開催

目 的：「子どもたちに平和な未来を！」

東日本大震災から見えてきた世界とのつながり、ヒロシマ・阪神淡路大震災・東日本大震災・フクシマから見えてきたものを一緒に考え、子どもたちの健やかな成長と平和な未来をめざし開催します。

日 時： 2012年8月 盛岡市

東日本大震災：「EYE SEE(子どもたちが見たもの)プロジェクト」写真展

記念講演： 講師 竹本成徳氏（兵庫県ユニセフ協会会長・元日本生協連会長）予定

7. 東日本大震災支援活動

日本ユニセフ協会の東日本大震災支援は、二年目にはいり心理社会的支援（心のケア）、子どもの保護、子どもにやさしい復興をめざした支援活動となっていきます。

災害対策本部盛岡事務所は縮小し、県ユニセフ協会も一体となってサポートしていくこととなります。関係団体と協力し被災地の子どもたちに寄り添った支援活動に取り組んでいきます。

8. ユニセフカード・グッズの普及に取り組みます。

- (1) 他団体との提携で、「ユニセフカード&ギフト」カタログ・チラシの配布をします。
- (2) 各イベント会場で、「ユニセフカード&ギフト」の頒布を行います

9. 他団体とのイベントに積極的に参加します。

- (1) 岩手県国際交流協会 ワンワールドフェスタ
- (2) いわて生協福祉まつり

10. 岩手県ユニセフ協会の運営

- (1) 運営会議を開催し具体的な事業について検討・実施いたします。
- (2) 事務局とボランティアスタッフと協力して活動をすすめます。

収入の部

大項目	中項目	小項目	2012年度予算	内容
協会からに仮受金収入				
	運営費仮受金		691,500	前年1月~12月当該県の納入会費の50%
	地域普及費仮受金		2,000,000	地域普及仮受金実施要項に基づく
	カード普及費仮受金		70,000	カード取扱目標額の15%(2012年度分含)
	特別事業費仮受金		0	
寄付金収入			0	
会費収入(独自)				
	公的機関から補助金		0	
	民間からの補助金		0	
雑収入			0	預金利息など
募金仮受入金			0	予算化しません。
カード仮受入金			0	カード取扱額
小計			2,761,500	
前期繰越金			21,447	
収入合計			2,782,947	

支出の部

大項目	中項目	小項目	2011年度予算	備考
事業費				
	啓発・募金活動費		1,770,000	
		催事費	600,000	催事実施費用、他団体との交流、募金活動
		資料制作費	200,000	機関誌・募金報告書ほか資料作成費
		旅費交通費	120,000	啓発・募金活動にかかる旅費と交通費
		通信運搬費	220,000	事業に伴う郵送代・宅配代・切手代・電話代
		消耗品費	30,000	啓発・募金活動にかかる文房具代
		ボランティア費	20,000	ボランティア交通費・保険など
		アルバイト費	10,000	臨時または定期的なアルバイト手当
		光熱水費	0	電気代・ガス代・水道代
		事務所借料	0	
		OA機器リース料	0	
		事務局スタッフ費	560,000	専従スタッフの手当
		雑費	10,000	啓発・募金活動にかかるその他経費
	特別事業費		0	周年事業に関わる経費
運営費				
			980,000	
	会議費		50,000	打合せ、お茶代
	通信運搬費		130,000	日常業務に関わる郵便代・HP
	消耗品費		20,000	文房具
	図書資料費		0	新聞購入
	印刷製本費		30,000	議案書・日常書類作成
	水熱光費		0	電気代・ガス代・水道代
	賃貸料		0	
		事務所借料	0	
		OA機器リース料	0	
	備品購入費		0	
	交通費		180,000	事務交通費
	事務局スタッフ費		560,000	専従スタッフの手当
	雑費		10,000	日常業務に関わるその他経費
	租税公課			予算化しません。
募金仮受金払い出し金			0	県協会が取り扱った額の協会への送金
カード仮受金払い出し金			0	
小計			2,750,000	
次期繰越金			32,947	
支出合計			2,782,947	

第3号議案

岩手県ユニセフ協会役員に関する件

2011年度第1回理事会（2011年8月2日）以降に所属団体の役員変更に伴い新たに就任された役員の方々です。

2012年2月28日現在（敬称略 50音順）

役 職	お 名 前	役 職
顧問	達 増 拓 也	岩手県知事
顧問	村 田 源一朗	（株）岩手日報社相談役・前岩手県ユニセフ協会会長
会 長	三 浦 宏	（株）岩手日報社代表取締役社長
副 会 長	加 藤 善 正	岩手県生活協同組合連合会会長理事
	藤 井 克 己	岩手大学学長
専務理事	高 橋 セキ子	元岩手県生活協同組合連合会専務理事
常務理事	安 藤 厚	元岩手県教育委員長
	梅 澤 明 美	いわて生活協同組合常務理事
	高 橋 克 公	岩手県学校生活協同組合専務理事
	林 正 文	岩手県ユニセフ協会花巻友の会会長
	向井田 郁 子	盛岡消費者友の会
	守 谷 祐 志	岩手県青年海外協力隊を育てる会理事
理 事	阿 部 敬 行	岩手県小学校長会会長
	石 川 育 成	（社）岩手県医師会会長
	稲 葉 暉	岩手県町村会会長
	及 川 公 子	NPO法人岩手県地域婦人団体協議会会長
	大 堀 勉	岩手医科大学理事長
	鎌 田 英 樹	（株）IBC岩手放送代表取締役社長
	小 松 敬 一	NHK盛岡放送局長
	佐々木 篤	岩手県中学校長会常任理事
	佐 藤 滋 樹	（株）岩手めんこいテレビ代表取締役社長
	瀬 川 玲 子	（財）日本ユニセフ協会花巻友の会副会長
	谷 藤 裕 明	岩手県市長会会長
	富 永 健 治	（株）岩手朝日テレビ代表取締役社長
	豊 巻 浩 也	岩手県教職員組合中央執行委員長
	檜 崎 憲 二	（株）テレビ岩手代表取締役社長
	沼宮内 淑 子	もりおか女性の会副会長
	増 子 義 孝	岩手県立大学名誉教授
	村 山 禎 英	立正佼成会盛岡教会教会長
	宮 澤 啓 祐	宮沢賢治記念会理事長・花巻商工会議所会頭
	米 沢 慎 悦	（社）岩手県PTA連合会会長
監 事	秋 山 信 勝	秋山会計事務所所長
	伊 藤 慶 子	岩手県消費者団体連絡協議会事務局長

評 議 員

泉 田 将 治	岩手県青年団体協議会会長
上 田 高	岩手県高等学校教職員組合執行委員長
及 川 サチ工	岩手県退職女性校長会顧問
大 内 豊	盛岡タイムス社社長
小田島 順 造	岩手県私学協会会長
小野寺 晶 子	国際ソロプチミスト盛岡
川 村 宗 生	(株)川徳代表取締役社長
桑 島 博	(社)岩手県社会福祉協議会会長
小苅米 葉 子	盛岡ゾンタクラブ会長
○佐 藤 宏	盛岡ライオンズクラブ会長
鈴 木 露 通	岩手県労働組合連合会議長
反 町 久 美	いわて生活協同組合理事
高 橋 克 彦	作家
高 橋 和 雄	岩手県高等学校長協会会長
田 沼 征 彦	岩手県農業協同組合中央会会長
千 葉 庄 悦	岩手県商工会連合会会長
千 葉 仁 一	岩手県市町村教育委員会協議会教育長部会長
智 田 恵 子	盛岡パイロットクラブ会長
沼宮内 拓 哉	日本ボーイスカウト岩手連盟事務局長
平 井 心み子	(社)ガールスカウト日本連盟岩手県支部支部長
村 田 憲 正	(株)エフエム岩手代表取締役社長
○谷 地 讓	(社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長
○八 幡 博 文	日本労働組合総連合会岩手県連合会事務局長
(欠員2名)	

○ 新たに就任された役員の方々です。

岩手県ユニセフ協会規約

第1章 総 則

前 文 岩手県ユニセフ協会は、公益財団法人日本ユニセフ協会と岩手県ユニセフ協会との協力協定に基づき設立される。

(名 称)

第1条 本会は、岩手県ユニセフ協会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を岩手県滝沢村に置く。

2 本会は、理事会の議決を経て、必要な地に従たる事務所を置くことができる。

(目 的)

第3条 本会は、公益財団法人日本ユニセフ協会(「日本ユニセフ協会」)との協力協定に基づき、岩手県において、日本ユニセフ協会の定款目的を実現することを目的とする。

(活 動)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1)ユニセフのための広報・啓発活動
- (2)ユニセフへの協力(募金)活動
- (3)県内支援者、募金協力者、地方自治体、関係団体との協力
- (4)その他本会の目的を達成するために必要な活動

第2章 運 営

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

- (1)理 事 30名以内
- (2)監 事 2名以内

(選 任)

第6条 理事及び監事は評議員会において選任し、理事の中から互選で次の役職者を選任する。

- (1)会 長 1名
- (2)副会長 3名以内
- (3)専務理事 1名
- (4)常務理事 若干名

(職 務)

第7条 会長は本会を代表し、その業務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時にはその職務を代行する。
- 3 専務理事は会長の意を受けて本会の業務を掌理する。
- 4 常務理事は理事会の議決に基づき、必要に応じて本会の業務を掌理する。
- 5 理事は理事会を構成し、本会の業務を議決し、執行する。

6 監事は本会の会計及び業務執行状況を監査する。

第3章 理事会

(権能)

第8条 会長は毎年2回以上理事会を開催し、この規約に定めるもののほか、以下の事項について決議し、理事会の議長として理事会を運営する。

- (1) 本会の事業計画と予算案
- (2) 本会の事業報告と決算
- (3) 本会の役員選出
- (4) その他本会の業務に関する重要事項

(定足数)

第9条 理事会は、理事の3分の2以上の出席を要し、委任状をもって代わりとすることができる。

(議決)

第10条 理事会の議決は、出席した理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第4章 評議員会

(評議員)

第11条 本会は評議員25名以上40名以内を置く。

- 2 評議員は、理事会で選出し、会長がこれを委嘱する。
- 3 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。補欠または増員により選任された評議員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

(評議員会)

第12条 評議員会は毎年1回以上開催する。

- 2 評議員会は、会長の諮問に応じ、必要な事項について審議し、助言する。
- 3 評議員会の議長は、評議会において互選する。

第5章 財産及び会計

(財産の管理)

第13条 本会の財産は会長が管理し、その方法は理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日から12月31日までとする。

(事務局)

第15条 本会の事務を処理するために事務局を設け、理事会の議決を経て事務局長を置くほか、積極的にボランティアの参加を得るものとする。

第6章 規約の変更及び解散

(変更)

16条 規約は、理事会及び評議員会において、それぞれ理事現在数及び評議員現在数の4/3以上の議決を経なければ変更することができない。

(解散)

第17条 本会は、理事会及び評議員会において、それぞれ理事現在数及び評議員現在数の4分の3以上の議決を経て解散することができ、残余財産については日本ユニセフ協会に寄付するものとする。

第7章 賛 助 会 員

(賛助会員)

第18条 本会の主旨に賛同し、支援する個人又は団体を賛助会員とすることができる。

- 2 賛助会員は、本会の運営に関し、何らの権利及び義務を有しない。
- 3 賛助会員に関する必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

第8章 補 則

(補 則)

第19条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

付則:この規約は2011年4月1日から施行する。

※公益財団法人日本ユニセフ協会が登記された日をもって実施日とする。

新聞報道による岩手県ユニセフ協会の活動 ほか

ユニセフから救援物資へ出 発

沿岸地域

ユニセフ（国連児童基金）は、日ごろ発展途上国支援などで協力している宮城、岩手の生協や各地に物流ルートを持つ大手企業などと連携し、東日本巨大地震の被災地の救援活動を展開している。先進国の日本に対するユニセフからの支援は、終戦直後の脱脂粉乳支援、50年の伊勢湾台風被災者への支援以来、半世紀ぶり。未曾有の大災害に国際的な支援を決めた。日本ユニセフ協会岩手県支部と岩手県生活協同組合連合会（加藤善正会長）もユニセフ支援の受け入

れ窓口となり24日、滝沢村のいわて生協本部から沿岸地域に向け、救援物資の第一便が出発した。

に荷を分け、宮古、山田、大船渡、陸前高田、釜石、大槌の6市町へ向かった。

め、他県からも共同購入車が入車に駆け付け、物資輸送に協力している。この日は秋田、東北生活協同組合の共同購入車がユニセフの旗を掲げて現地入りした。

いわて生協本部には25日以降も、ユニセフから子ども用の肌着9700枚、トレーナー上下1万5千枚、長靴

被災地に送られたのは子ども用のシャツ3万枚。2トントラック3台と大槌町へ向かう炊き出し隊のトラック

入を停止している共同購入トラック。通常の共同購入を停止している

共同購入品を各地域や家庭へ搬送している

次的に必要な物資はあちろん、心の癒やしにつながる文房具やサッカーボール、授乳中の母親が安心して休めるスペースを確保するための仕切りなども届け、中長期的な支援に協力できればと話。

震災救援のコーディネートターとしてユニセフ本部から仙台市に派遣されている國井修さん（ユニセフソマリア事務所保健栄養事業部長）は「地元生協は現地の事情に詳しく、燃料なども組織的に確保されていて非常に助かる。被災地で必要としているものについてフードバックも得られる」と語る。

今後、本県にもユニセフの職員を常駐させ、学校の再開や幼児の支援に向けたプログラムも展開するとしている。

トラックの前で救援物資の搬送について打ち合わせする生協とユニセフの職員



トラックの前で救援物資の搬送について打ち合わせする生協とユニセフの職員

2011. 3. 25 盛岡タイムス

被災の子ども「支援を」

日本ユニセフ協会東日本大震災支援対策委員
員会ワールドマネジャーとして県内で活動中の安田直史さん(53)は、被災地の子ども支援の重要性を訴えている。震災で親が亡くなったたり、行方不明になった孤児や子どもの心のケアなどを今後の課題に挙げ、「子どもに焦点を当て、自治体と連携して側面支援に当たる」と強調する。



「子どもに焦点を当てた支援をしていく」と語る安田直史さん

日本ユニセフ本県担当・安田さん 心のケア課題に活動

医師の安田さんは、ユニセフベトナム事務

所から本県担当として派遣された。日本ユニセフ協会は今回の震災で▽教育支援▽お母さんと赤ちゃんの保健支援▽子どもの保護支援を柱に据え、世界各地の事務所から医師らを被災地に派遣し、支援に当たっている。

両親が死んだり行方不明になっている18歳未満の子どもは県内で約50人との調査結果が示され、同協会は保護が必要な子どもについて、里親に取り組みネットワークや子どもの権利担当の弁護士らと連携して支援す

る。安田さんは「混乱に乗じて子どもを連れ去ったりするケースも考えられる。のちの子どもに不利にならないよう、市町村などに注意喚起している」と説明する。「孤児だけが注目される傾向にあるが、問題はそれだけではない。親がいても職がなくなり、貧困に陥る家庭の子どもも存在も考えなくてはならない」と語る。教育支援としては、学用品や学校の備品、画用紙やクレヨンなどを被災地に配布。全国から寄せられた絵本や児童図書をお届けする「ユニセフちっちゃな図書館プロジェクト」も実施。子どもたちが安心して遊べる「子どもにやさしい空間」を設置し、遊びを通じた心のケアにも取り組む。安田さんは「現地で遊ぶスペースの確保が難しいところもある。子どもに焦点を当てた支援をしていきたい」と話す。

2011. 4. 1 岩手日報

子どもらの支援に意欲

ユニセフ東京代表 被災地を支援している国連児童基金(ユニセフ)の平林国彦(東京事務所代表(52))と日本



平林国彦(東京事務所代表)と安田直史(岩手ワールドマネジャー)(左)ら。

ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部の安田直史・岩手ワールドマネジャー(52)は7日、盛岡市の岩手日報社を訪れ、三浦宏社長らと懇談した。

平林代表は「ボランティアに協力してもらい支援している。国の手の届かないところをサポートし、子どもたちを支える社会の仕組みづくりも手伝ってきたい」と語った。

ユニセフは、県内の被災地に子ども用の下着3万枚などを寄贈。今後は学校や震災孤児を中心に支援を続ける。

本県被災地での4日間を振り返るアグネス・チャンさん



「子ども関係の悩み教えて」

本県で活動 支援継続誓う
アグネスさん

本県の被災地を慰问した。アグネスさんは大船
して来た日本ユニセフ
協会大使のアグネス・
チャンさんは2日、離
島前において花巻空港
で会見し、「子どもに
まつわる悩みは抱えず
に教えて、全力で支え
る」と訴えた。
1月29日からの4日
間を振り返り、陸前高
田・一中の避難所を出
会った4歳女児から、
上門玉と、因玉を「役
に立てて」と差し出さ
れ、「泣いた出来事が
忘れられない」と語っ
る。アグネスさんは大船
渡前など1市2町で、
日本ユニセフ協会が再
開を支援した保育園や
避難所を訪問。絵本の
読み聞かせや語らいで
被災者に寄り添った。
悲しみを分かち合
えれば」と多くの人と
語り合えたことに感謝
し、今後の支援策とし
て子育てなどを挙げ
「まもなく発牛から2
カ月となるが、これか
らが本音、励まし続け
る」と誓った。

2011. 5. 4 岩手日報



餅つきを楽しむ大槌町の親子や学生ボランティア。きねを手にすると思わず笑顔になった。遠野市・遠野ふるさと村

被災地親子「遊び」満喫

被災地の親子を対象「少ない」と今回の企画にした。こどもバス遠に感謝しきり。
足（日本ユニセフ協 釜石市、大船渡市、
会主催）は3日から始 陸前高田市から参加し
まり、約80人が遠野市 た源人は、カタクリの
や西和賀町などで、遊 里として知られる西和
びを満喫した。 賀町の無地内群生地を
向日は盛岡市動物公 散策。かれんに咲く紫
園や一戸町のいわて子 色のカタクリや鮮やか
どもの森などイコ！な黄色のフクジュソウ
内陸部へバス遠足 日本ユニセフ
協会企画
ス。遠野市の遠野ふる など早春の光景を満
さと村には大槌町から んだ。
参加した親子14人が訪 大船渡市三陸町の占
れ、学生ボランティア 水しおりさん、越喜來
とともに竹細工や餅つ 小島牛（は）ぎれいな
きに飲出を上げた。 花や草を見ることがで
同町栄町で被災し、 きてうれしい」と癒や
釜石市上中島町のアパ されていた。
ートで暮らす藤社長枝 遠足は若手県北観光
さん（35）は、被災地は と連携して企画し無
子どもが遊べる場所が 料。8日まで行われる。

子に寄り添うことを



ユニセフから提供された0、6歳児のための「箱の中の幼稚園」キットで遊ぶ子どもたち
=ふれあいランド若手・盛岡市

ユニセフや県立大学 支援に乗り出す

避難所で暮らす子どもと保護者の心のケアが課題になっている。被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。ユニセフは、被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。

避難所で心のケア進めよう

ユニセフは、避難所の子どもの心のケアを進めようとしている。被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。ユニセフは、被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。

ユニセフは、避難所の子どもの心のケアを進めようとしている。被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。ユニセフは、被災地の状況を踏まえ、被災地支援として、ユニセフや県立大学の協力を得て、被災地の子どもの心のケアに乗り出す。ユニセフは、避難所の子どもの心のケアに「箱の中の幼稚園」キットを提供する。

2011. 4. 7 盛岡タイムス

盛岡を歩いて
被災地支援に

22日ユニセフ催し

第1回ユニセフ・ラ
ブウォーキングinいわて
(県ユニセフ協会など
主催)は22日、盛岡市
内で開かれる。参加費
はユニセフを通して、
東日本大震災で被害を
受けた子どもたちの支
援に充てる。

全長10キロと5キロの2
コース。同市内丸の盛
岡城跡公園を出発し、
中津川沿いのチェック
ポイントを通過しなが
ら再び盛岡城跡公園に
戻る。10キロコースは午
前9時半、5キロコース
は同9時45分にスター
トする。

定員300人。参加
費は大人500円、18
歳未満200円で、全
額を震災の緊急募金に
充てる。

希望者は住所、氏名、
年齢、コースを電話か
ファクス、メールで連
絡する。申し込み、問
い合わせは県ユニセフ
協会(電話019・6
87・4460、ファ
クス019・687・
4191、メールsmi
unicef.iwate@rod



新緑に囲まれてウォーキングを楽しんだユニセフ
ラブウォーキングinいわて参加者

盛岡でユニセフ
ラブウォーキ

250人が参加
第1回ユニセフラ
ブウォーキングinいわて
(県ユニセフ協会、県

ウォーキング協会、盛
岡市ウォーキング協会
主催)が22日、盛岡市
の中津川河川敷で開催
された。県内各地から
ウォーキング愛好家な
ど約250人が参加。

今回集まった参加費約
13万円は東日本大震災
津波の募金として、子
どもたちの支援に使わ
れる。

2種類のコースが設
定され、参加者はそれ
ぞれの体力にあったコ
ースを選択した。5キ
ロコースは文化橋を折り
返し、下流の毘沙門橋
を渡って公園に戻る。

10キロコースは、下の橋
から落合橋までの間に
ある13本の橋を全て渡
る。どちらのコースも
川沿いの遊歩道を歩
き、途中の中央公民館
では新緑豊かな庭園を

一周して盛岡の春を堪能した。

釜石市ウォーキング
協会の柘井昇さん(70)
は「雨だったが、青葉
がきれいでいいコース
だった」と完歩して話
した。

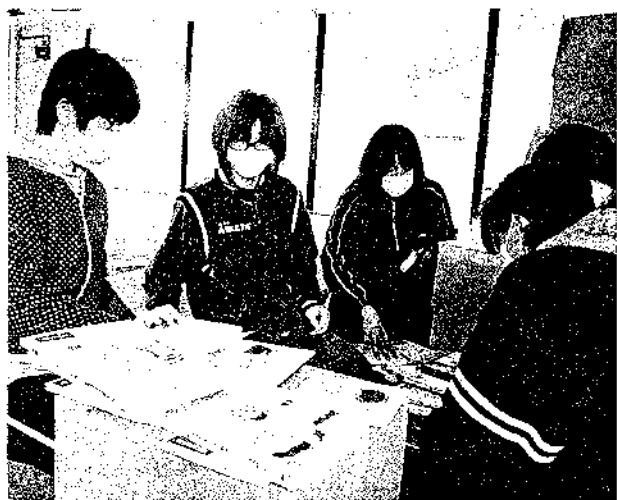
盛岡市立高校3年の
畑美田紀さん(17)は
「5キロは結構長かった。
震災では被災した人も
多いので、募金が何か
の役に立ってくれれば」と思いを語った。

ユニセフラブウォー
キングは、歩くことで健康
づくりをすることも
に、参加者の募金で発
展途上国の子どもたち
のために役立てよう
965年にイギリスで
生まれた。今回は県ユ
ニセフ協会設立10周年
行事として開催され
た。

園児と再会 心躍らせ

大槌保育園

きょうから再開 ユニセフ支援、仮設完成



1日の保育サービス再開に向け、完成したばかりの仮設園舎で準備を進める保育士・大槌町

津波で一階天井近くまで浸水し、休園していた大槌町小鉢の大槌保育園（八木沢町）が、震災発生当日は、園舎も避難場所も津波に襲われ、園児約40人を大槌の管内地区に完成した。1日から保育サービスを開始する。八木沢園長や保育士は園児約50人との再会に心を躍らせながら、おもちやなどを用意した。八木沢園長は3月下旬から再開に向けた活動を開始したが、園舎は危険区域で使えず、避難所の使用も衛生面で不安が残ったため、断念。県内で支援活動を展開していた同協会に相談し、同協会の費用援助を受けられることになった。仮設園舎は7月22日に着工した。同協会の近藤智香・盛岡事務所フィールドマネジャーは「園児が多い保育所だったので、日でも早い保育サービス再開が必要だった」と通舎完成を喜ぶ。

八木沢園長は、思入れのある元の園舎で再開できないのは残念だが、感謝の気持ちで頑張りたい、と涙ぐみながら前を向いた。

2011. 6. 1 岩手日報

栄養ハンチリ おやつに笑顔

大槌園
大槌

日本ユニセフ協会提供

大槌町大ケ口の大ケ口、日本ユニセフ協会から支援を受け、園児におやつを提供しお菓子でとてもおいに朝食を届ける。

た。手作りの和菓子もしかった」と喜んでテーブルに並び、園児は満面の笑みで堪能した。

同協会の栄養支援は大震災の被害が大きかった同町と陸前高田市、山田町の幼稚園や保育園22施設に対して16日から始まった。栄養価が高いお菓子や果物を提供。現在は同協会が直接配送しているが、来週からは、いわて生協と連携し定期的



「おいしいね」と笑顔でお菓子を食べる園児たち—大槌町・大ケ口保育園

歌声 被災地へ届け 巻

ユニセフ平和チャリティーコンサート 心一つにコンサート 花

「ユニセフ平和チャリティーコンサート」(日本ユニセフ協会県支部花巻友の会主催)は31日、花巻市大通りのなはんプラザで開かれた。市民コーラスグループや県立不來方高校音楽部などが出演し、温かい響きの合唱を聞かせた。

「歌声を通して被災地の子どもたちに夢と希望を」と題するコンサートに、市民ら400人余りが来場。初めに主催者の林正文花巻友の会長が「被災された方もお招きしたコンサートで、心を一つにして歌いたい」と

あいさつした。第1部は、コーラス四つ葉に始まり、花巻南高合唱部・日本音楽部、花巻北高合唱部、鬮流(コール)はなまきがそれぞれステージに立ち、「少年時代」や「川の流れるように」などを披露した。

第2部は不來方高音楽部が特別出演。バイオリンとピアノでバルティックの「四季」を「春」や「夏」に分けて演奏後、混声合唱が「花」「ペチカ」などへと歌いつなぐ趣向を披露。さらに震災支援の思いを込めて「勇気100

万」時代」など美しいハーモニーを響かせ、聴衆から大きな拍手が送られた。最後は出演者全員で「大地讃頌」と「故郷」を合唱した。会場での協力募金や入場料の益金はユニセフ本部に送る予定。



心温まる歌声が響いたユニセフ平和チャリティーコンサート

2011. 8. 1 岩手日日

県ユニセフ協
会長に三浦氏

盛岡で理事会

県ユニセフ協会は2日、盛岡市志家町のサンセール盛岡で2011年度第1回理事会・評議員会を開き、村田源一朗会長の後任に、三浦宏岩手日報社社長を決めた。任期は村田会長の残任期間の来年7月まで。

37人が出席。10年度の事業報告や11年度の事業計画などを承認した。

理事会などに続き、日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部の近藤智春岩手ワールドマネジャーが、同協会の本県での被災地支援活動を報告した。



大槌町で撮影した写真を前に、思いを語る新藤健一さん

震災の実情写し出す

盛岡でユニセフ写真展

県ユニセフ協会（会長 社長）による東日本大震災・三浦宏岩手日報社「震災報告写真展」は5

日、盛岡市盛岡駅西通1丁目（いわて県民情報交流センター（アイーナ））で始まった。本県の被災地の写真を含む約50点を展示。震災の実情とユニセフの支援活動を伝えている。

全国を巡回し、本県では花巻市に次ぐ開催。日本ユニセフ協会のオフィシャルフォトグラファー、新藤健一さん（67）＝東京都＝が宮城や福島各県で撮影した写真を展示する。

被災した市街地のほか、山田町の自宅跡で思い出の物を探す子どもや、同協会のアグネ

ス・チャン大使と電車ごっこをする陸前高田市の園児など、胸を打つ写真が並んでいる。日本国内で50年ぶりとなったユニセフの支援活動も紹介する。

元共同通信のカメラマンで、仙台市に在住したこともある新藤さんは「東北を古里と見て。世界各地でいるんなものを見てきたが、今回は写真の限界さえ感じる、さまざままなことがあった。一つ一つの写真にある事実や背景を、見て考えてほしい」と訴える。展示は7日までで午前10時から午後4時まで。入場無料。

2011. 8. 6 岩手日報

子ども励ます歌の交流

県ユニセフ協会(三浦宏会長)は7日、盛岡市盛岡駅西通り十目のいわて県民情報交流センター(アイーナ)で「いわてユニセフ10周年記念公演『みんな地球の子どもたち・地球のステーション』」を開いた。大槌町にある地元合唱団の子どもたちを招待して合唱や、世界各国で医療支援活動を行う医師桑山紀彦さん(山形市)によるライブを開催。「子どもたちはみな仲間」との思いを共有した。



開演前の交流会で、キャラホール少年合唱団と合唱するあぐどまめ合唱団の子どもたち

盛岡で県会 ユニセフ協会 大槌の合唱団招待

招待されたのは大槌町のキッズコーラス「あぐどまめ合唱団」に所属する5人の小学生。開演前に、盛岡市などの小中学生で構成されるキャラホール少年少女合唱団との交流会が開かれ、「See You」などを合唱した。自己紹介やメッセージカード贈呈もあり、交流を深めた。公演は第1部が「開修紅高音楽部とキャラホール少年少女合唱団の合唱」、第2部が桑山さんの被災地の現状を伝える映像と語りのライブで、会場は感動に包まれた。プログラムの合間にはあぐどまめ合唱団がゲスト紹介され、観客席にいた子どもたちは会場から温かな歓迎の拍手を受けました。

大槌北小3年の佐藤千絵さんは「キャラホール合唱団の音がきれいで、一緒に歌って楽しかった」と目を輝かせた。

今回の招待は、震災を機にキャラホール少

年少女合唱団が交流のあったあぐどまめ合唱団を励ますこと企画した。キャラホール少年少女合唱団指揮者の赤

沼利加さん(52)は「今後も定期コンサートなどを通して、沿岸の子どもたちと交流してほしい」と語った。

園庭彩る花々 「来春楽しみ」

大槌で球根植え

県ユニセフ協会



ポランテアから植え方を聞き、球根を植える園児

県ユニセフ協会(三浦宏会長)は26日、大槌町の保育園や幼稚園で花の球根を植えるポランテア活動を行った。仮設園舎の保育園や津波で浸水した幼稚園園庭を植物で飾ろうと園児と汗を流した。県内外のポランテア

ア34人が、同町の吉里盛んな富山県砺波市が吉里保育園、大槌保育園、おさなご幼稚園には昨秋、卒園児がチュウ分かれて活動。おさなご幼稚園(箱山幸子園長、園児44人)では、ポランテアと園児約40人でチューリップやスイセンの球根、ピオラの花を植えた。チューリップの球根は、兵庫県ユニセフ協会の支援で球根栽培が

盛んな富山県砺波市がら届いた。同幼稚園では昨秋、卒園児がチュウリップを植えたが、震災で1輪も咲かなかった。

佐々木太一ちゃん(6)、川原畑李桜ちゃん(6)、柏崎虹ちゃん(6)は「今年は咲かなくて残念。春に咲くのが楽しみ」と笑顔で作業した。

2011. 10. 27 岩手日報

被災地支援

継続に意欲

日本ユニセフ副会長
東郷良尚
副会長



写真：19日、盛岡市内丸の岩手日報社を訪れ、東日本大震災の緊急支援活動や今後の児童支援について三浦

浦宏社長と懇談した。同協会は震災発生直後からいわて生協や協力企業の寄贈も受け緊急支援物資を提供したほか、保育園の仮設園舎建設や保育士派遣などを行ってきた。

東郷副会長は「ユニセフとして日本国内の支援は約50年ぶり。各支援組織がフルに動いてくれた」と振り返り

浦宏社長と懇談した。

同協会は震災発生直後からいわて生協や協力企業の寄贈も受け緊急支援物資を提供したほか、保育園の仮設園舎建設や保育士派遣などを行ってきた。

東郷副会長は「ユニセフとして日本国内の支援は約50年ぶり。各支援組織がフルに動いてくれた」と振り返り

暴力から子どもを守る

ユニセフが人材養成講座

日本ユニセフ協会は8日、盛岡市の岩手大で小中学生などに人権教育を行う「CAP(子どもへの暴力阻止)スペシャリスト」の人材養成講座を開き、県内の児童相談員や自治体職員ら約30人が参加した。

被災地の児童の不安解消や、虐待・いじめからの保護が目的。同協会の子どもの保護アドバイザー小野道子さんは「世界的に、自然災害後の子どもに対する暴

力増加が、問題になっている」と指摘。参加者は3日間、虐待や性的暴力などに関する法律、子どもへの人権教育の方法を学んだ。

8日は社団法人「JICA APTA」(北海道)のトレーナーが、米国の虐待への取り組みを講義。その後、児童誘拐の対処について、「口を押さえられたら、相手の小指を引っ張ると外れる」といった自衛方法を紹介した。

2011. 10. 14 読売新聞

2011. 10. 20 岩手日報

被災地の子どもたちを励まそうと、日本ユニセフ協会は13日、大船渡市綾里中(生徒75人)に、スリランカとベトナム、南アフリカ、エリトリアの子どもたちが書いた手紙約90通を届けた。

各国に滞在経験のある協会スタッフ2人が、全校生徒の前で食生活や文化、紛争などについて講演し、同世代の子どもたちから寄せられた手紙を生徒に手渡した。

手紙には「みんな大好きだよ」「元氣出してね」

海外の子らも応援

日本ユニセフ協会

大船渡 綾里中に手紙届ける

などどつづられており、生徒たちは「震災に負けないようがんばります」「みんなであつながついていこう!」などと返事を書いた。

1年生の坂本恭介君(13)は「他の国でもいろんなつらいことがあるのに、すごく温かいメッセージをもらった」と喜んでいました。

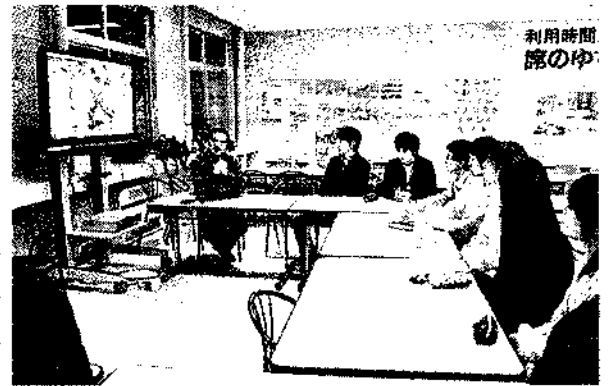
手紙で世界と被災地をつなぐ手紙プロジェクトの一環。岩手、宮城、福島県の保育園や幼稚園、小中高の計約20カ所を対象に実施している。



海外の子どもたちからの手紙に返事を書く大船渡市綾里中の生徒たち

世界の子どもに目を向けて 盛岡大 外国人写真家が講義

日本ユニセフ協会とユニセフと共に活動する(本部東京都、赤松良イタリヤの写真家ジャコモ・ピロツツイさん)は7日、滝沢コモ・ピロツツイさん村滝沢の盛岡大で、ユニセフの講座を開いた。写真



利用時間 席のゆ

撮影した写真を見せ、世界の子どもの現状を訴えるジャコモ・ピロツツイさん(左)

~~~~~

を通して世界の現状に理解を深めた。

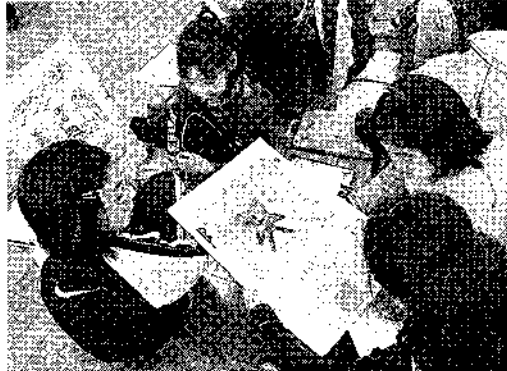
ピロツツイさんは中央アジアのグルジアで、障害児や虐待を受けた児童のサポート体制が不十分な現状や、路上で暮らし、ごみの中から食べ物を探すフイリピンの子どもの様子などを説明。世界の子どもたちの過酷な状況を訴えた。

飛内音莉さん(文学部2年)は「世界中の人が平和で仲良くあるような意識を、一人一人が持たなければいけないと感じた」とかみしめた。

講座は、東北の若者に世界の子どもからの手紙を届ける事業の一環。同日はグルジア、フィリピンの子どもが書いた手紙やイラスト20通以上を届け、生徒たちが返事を書いた。

# 「希望を持って」

ネパールの子ら励ましの絵



ネパールの子どもから届いた励ましのメッセージ入りの絵を見て喜ぶ児童たち＝盛岡市上田3丁目

盛岡・上田小に48枚届く

ネパールの子どもたちから励ましの言葉を添えた絵48枚が18日、盛岡市立上田

小学校に届いた。ある絵には、日本とネパールの国旗を持って手を結ぶ様子が描

かれ、「神様がついてる。希望を持って」とメッセージが書かれている。児童たちは感謝しながら返事を書いた。

震災被害を受けた東北と世界の子どもたちを結ぶ日本ユニセフ協会の活動「Regami Project (テガミプロジェクト)」の一環。

上田小の5年生66人はこの日、ネパールの暮らしについて学んだ。ネパール出身で日本人の夫をもつ盛岡市在住の松原杏寿さん(33)は「ネパールは貧しい国。日本のように清潔で安全な水を利用している人は少ない。小さいころから水くみをしていて水の大切さがよくわかる」と話した。

お礼の手紙に色鉛筆で絵

を描いた五十嵐希実さん(11)は「日本よりも大変な国なのに、私たち東北のことを思ってくれてうれし

2011. 11. 23 朝日新聞

# 共に助け合う世界に

## 花北青雲高で ユニセフ講座 菓子販売益金も贈る

県立花北青雲高校(在 原真校長、生徒476人)のユニセフ講座は1日、花巻市石鳥谷町の同校で開かれた。総合生活科の3年生2人が、DV Dビデオで世界の貧しい子供たちの状況を学習。



世界中から東日本大震災の被災者に贈られたメッセージに返信する「手紙プロジェクト」にも取り組み、国際社会の理解を深めた。

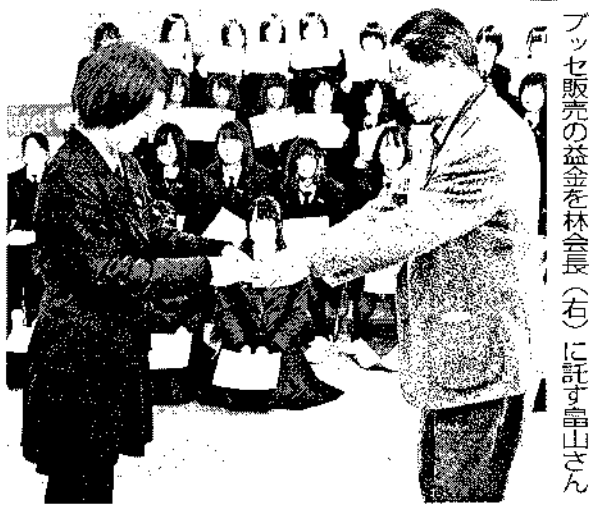
生徒たちは、同校学園祭(10月)でオリジナル菓子「花巻産雑穀を使ったブッセ」を販売し、9万1340円の益金のうち、3万1340円を貧しい国の子供たちのために寄付することを決定。

日本ユニセフ協会を通しての寄付としたため、同校の授業「生活産業経営実践」の中で、同日の講座が実現した。

手紙プロジェクトの取り組みでは、カンボジアから同校にカードが届いたことから、カンボジア人女性留学生のセン・チャンタさんが特別講師を務めた。生徒たちはカンボジアの言葉が分からないながらも、遠い国から震災被災者のために贈られたメッセージに感謝の意を伝えようと、カードにかわいらしいイラストを描いたり、折り紙を制作して貼り付けるなどしていた。

宮田さんらは、貧しい国の映像を見せつつ、幼くして戦争に駆り出されたり、重労働を課せられたりと、厳しい環境に置かれている子供たちの現状を説明し「世界の子供たちカンボジア人女性による講義などで国際社会に理解を深めたユニセフ講座」

生徒たちは、苦しい現実を生きながらも、日本の被災地に思いを寄せてくれた子供たちに感激した様子。ブッセ販売で作業を統括した畠山厚広さんは「社会貢献のために



何ができるかクラス全員で話し合った。子供たちにも一つでも多くワクワクが届いてほしい。この取り組みを後輩も受け継いでもらえたら」と話し、国際的な視野を広げられ被災地に贈られる。

ブッセ販売の益金を林会長(右)に託す畠山さん

2011. 12. 2 岩手日報

～被災地へのメッセージ～

いわて 東日本大震災

金ヶ崎町永沢

関根 来華さん

(永岡小6年)

山田町に親戚がい

て、これまでに3回訪配した。学校では全校  
れた。津波によって家 児童が家から文房具を  
が壊れたり、船が路上 持ち寄って、被災地の  
に転がっている風景を 小学校に届けた。震災  
見て心が痛んだ。秋に を経験して、人に役立  
訪れた時も、がれきの つ仕事が出来ない気持ち  
山から煙が出ていて心 がさらに強くなった。



人に役立つ仕事が夢

津波てんてんこ

題字・山下文男さん



募金活動を続け応援

国連児童基金の授業 心配された。母国では  
で花巻市の花北青雲高 多くの人が日本を思い  
を訪れた。東日本大震 心を痛めている。募金  
災のニュースは出身地 活動を続け、被災地の  
のキャンボシアでも大 皆さんが毎日前向きに  
く報じられ、直後は家 生活できるように応援  
族に原発事故の影響を していきたい。

(29)

東京都八王子市 日本  
大大学院文学研究科  
セン・チャンダさん



花巻市葛

花巻農協女性部長

葛巻 輝さん(63)

釜石市と大槌町が管

仮設住民集う機会を

内にあることも  
あつて、義援金  
のほかに衣類や  
食料を届けてい  
る。釜石東部漁  
協の女性部と一  
緒に仮設住宅で  
布草履を作り、  
それを花巻で販  
売した益金を寄  
付する活動を予  
定している。仮  
設住宅では地域  
の人たちがばらばらに  
なったり、孤立したり  
していると思つので、  
みんなが集まる機会に  
なればうれしい。

神奈川県葉山町

日本ユニセフ協会職員

宮田 由香さん(30)

4月1日から約2週

間、ユニセフの岩手県

対策本部に滞在して物

資の供給を担当

した。震災発生

から8カ月が過

ぎ、首都圏では

被災地のニュー

スが減っている

と感じる。今、

子どもの心のケ

アがますます必

要になつてい

る。ユニセフは

安心して遊べる

場所づくりや本

の寄贈など、世界や全

国と被災地をつなぐ活

動を続けていく。

子どものケアに力点



花巻市西宮野目

ピアノ講師

高橋ミヨ子さん(66)

地元で開かれた復興

支援の「ユニセ

フチャリテイ

コンサートに、

指導するコーラ

スグループ「コ

ーラス四つ葉」

のみんなと参加

した。「負けれ

ない」という気

持ちを込めた。

言葉では伝わり

にくくても、メ

ロディーに乗せ

れば届くと信じて

いる。コーラスをして

て思つのは仲間の大切

さ。協力できることは

何でもして行く。

「負けない」歌声込め



買い物客に募金を呼び掛ける矢沢中の生徒

「被災地を笑顔に」  
願い街頭募金活動  
花巻で中高生ら

県ユニセフ協会花巻友の会（林正文会長）は4日、花巻市内3カ所の街頭で、東日本大震災の募金活動を行

い、市内8校の中高生が協力した。

花巻、花巻北、南城、矢沢の4中学校、花巻

北、花巻南、花巻農、花巻東の4高校から約

150人が集まった。同市野田の産直一母

ちゃんハウスだ。あすこ

こでは、約30人が大

きな声で買い物客に募

金を呼び掛け、強風が

吹き荒れる中、寒さに

負けず約1時間立ち続

2011. 12. 5 岩手日報

野球部の仲間6人と

参加した矢沢中2年の

熊谷祐助君は「みんな

は一人のために」など

と書いたポスターを持

参。「被災地を笑顔に

したい」と願った。

活動は、ユニセフハ

ンド・イン・ハンド募

金の一環で、県ユニセ

フ協会は独自に募金先



被災地への支援を呼び掛け、募金活動を行うボランティア

沿岸の子を支援  
盛岡で募金活動

県ユニセフ協会

長・三浦宏岩手日報社

社長）は11日、盛岡市

内各地で街頭募金活動

ハンド・イン・ハンドを行った。東日本大震災に見舞われた沿岸の子どもたちの支援につなげようと、多くのボランティアが市民へ協力を呼び掛けた。

中高生、大学生や一般のボランティア約2

60人が市内6カ所で活動した。同市菜園1

丁目のカワトク前では、47人が自作のポス

ターやのぼりを手に支援を呼び掛けた。

2回目の参加という吉田恵太君（河南中3

年）は、友人たちと一緒に声を張り上げた。

「同じ県の小中学生が大変な思いをしているので、この募金を支援に使ってもらえたらいい」と思いを寄せた。

募金は日本ユニセフ協会の東日本大震災緊急募金の一部として、被災地の子どもインフルエンザ予防接種などに使われる。

2011. 12. 12 岩手日報

事務局

**岩手県ユニセフ協会**

〒020-0180 岩手郡滝沢村土沢220-3 いわて生協本部2F  
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491  
e-mail:sn.iunicef.iwate@todook.jp

